

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 尾張旭市立旭小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫 _____）
※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む
所在地 〒 4 8 8 - 0 8 0 4
尾張旭市西の野町 5 丁目 1 番地
E-mail asahi@owariasahi.ed.jp
Website _____
幼児児童生徒数 男子 2 1 7 名 女子 2 1 4 名 合計 4 3 1 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ～ 1 2 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月～平成 3 0 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

本校は、「意志が強く心のやさしい人・力いっぱい勉強する人・いつも心身の健康な人」を校訓としている。ESDの実践を通して、以下のようにめざす子ども像を設定している。

【めざす子ども像】

- ・ 自分の周りで起きていることを自分の問題としてとらえ、課題解決に向け主体的に行動できる。
- ・ 周りの人や周りのことについて考えることができる。
- ・ 素直であいさつができる。

「自ら考え、共に学び合う子どもの育成」を目標とし、「いのちのつながり」「環境」「かかわり」をキーワードとして捉え、本校独自のカリキュラムを編成し、その教育活動を通して、ユネスコスクールの理念に迫った。

本年度は、①いのちのつながり学習、②環境にかかわる学習、③かかわり学習Ⅰ、④かかわりⅡの実践を行った。

① いのちのつながり学習

1・2年の生活科で「生きものの世話」、3・6年の理科で「植物・動物のしくみ」、5年の総合的な学習の時間で「稲作」について学んでいる。また、6年生では、いじめ出前授業で弁護士の講師を招き、いのちの大切さや友達を思いやる気持ちを学んだ。児童会活動では、縦割り活動で異学年交流を行い、思いやりの気持ちを育てている。児童会役員や委員会では、挨拶を積極的に呼びかける活動もしている。

② 環境にかかわる学習

4・5年生の理科で「四季の変化」、4年生の総合的な学習で「身の回りの環境」でごみの調査を行っている。5年生で外部講師を招聘して「ストップ地球温暖化防止教室」を行い、実験を通して、身近なことから環境を守ろうと意識を高めた。

③ かかわり学習Ⅰ

3年生では外部講師を招聘して「地域伝統文化」である「棒の手」や「おこしもの」について学び、4年生では保護者を招いて「1/2 成人式」、5年生では講師を招いて「福祉実践教室」、6年生では「室町文化体験」として「水墨画」「生け花」の体験を行った。また、全学年で栄養教諭による栄養指導を行った。

④ かかわり学習Ⅱ

アクティブラーニングを導入し、子どもが考えを広げ深める活動ができるような授業づくりをしている。1時間の授業形態を工夫し、「じっくりタイム」を設定して児童は課題に対して自分の意見を持ち、「ご近所タイム」という少人数による話し合いの場で他の意見を聞き、自分の考えをより確かなものになっている。授業の終わりには「なるほどタイム」を設定して、学習の振り返りを行い次時につなげている。



① 米作り



② ストップ温暖化防止教室



③ 棒の手



④ ご近所タイム

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度） ※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

1 本校の教育課程の位置付け

- ① 各教科、道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導の中で、持続発展教育の意義をふまえた活動を意識的に取り入れていく。
- ② 具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかわりに関心を持ち、自立への基礎を養う。

2 アクティブラーニング型授業の導入

①じっくりタイム

課題に対し一人で考え、自分の考えをもつ。

②ご近所タイム

自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見を聴いたりすることで、考えを広げ深める場面の充実を図り、全体での話し合いにつなげる。

③なるほどタイム

本時の授業で分かったことや思ったこと、なるほどと思った友達の考えを振り返り、学びを深める。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

プロジェクトの校内推進を図り、継続的に活動に取り組めるように、ESD年間計画を作成している。年間計画は、「いのちのつながり学習」を黄色、「環境学習」を緑色、「かかわり学習」を茶色で示し、理科や総合的な学習の時間、特別活動、他教科とのかかわりが一目で分かるようになっている。また、子どもたちに自然体験をさせ感性を育てるために、「青空広場」「学習園」「ひまわり観察台」「ビオトープ」の整備を定期的に行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に保護者を対象に学校評価を行っている。保護者からは、挨拶や返事がよくできるようになったという評価が得られた。しかし、「自ら考え、共に学び合う子どもの育成」ができる授業づくりについては、周知されていないためか、できていないと考えられている。年間を通じて保護者に情報発信して授業づくりに取り組んでいきたい。

ユネスコスクールとして周囲にさらに情報発信していくこと、他校や外部の団体と交流してネットワークを広げていくことが今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果については、本校のホームページや学校だよりに子どもの様子を載せ、保護者や地域に発信している。米作りや、地域の伝統行事である棒の手については、地域の外部講師に来ていただいている。地域の方は、学校に関心が高く、子どもたちが放課に利用する芝生広場の芝生をボランティアで整備している。アクティブラーニング型授業の積極的な導入をしており、来年度は、「自ら学び、共に学び合う子どもの育成」をテーマとして研究発表を行う予定である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

毎月保育園児が芝生広場に遊びに来ている。年長の園児は、3月に1年生の教室を訪問し、児童と交流をした。10月には自治会が「ふれあい運動会」を開催しており、地域の方と児童が交流をして、一緒に運動会を楽しんでいる。2月には、1年生がスクールガード連絡協議会に参加し、歌を歌ったり鍵盤楽器で演奏したりして、地域の方と交流をした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

現在、国内外のユネスコスクールとの交流はしていないが、本校のキーワードである「いのちのつながり」「環境」「かかわり」に関する取り組みをしている他校を調べ、交流をしていきたいと考えている。他校と交流し、その取り組みを参考にして、本校の活動が児童にとってよりよいものになるようにしていく。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

保護者や地域の方から、「おはようございます」や「こんにちは」の挨拶がよくなるようになったと言われている。「かかわり学習Ⅰ」では、毎年地域の方から伝統文化を学んでおり、自分たちの地域に伝わる伝統への意識が高まってきている。「かかわり学習Ⅱ」では、児童は課題に対して自分の意見を持ち、「ご近所タイム」という少人数による話し合いの場で他の意見を聞き、自分の考えをより確かなものにしていこうとする姿が見られるようになってきた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

「自ら考え、共に学び合う子どもの育成」を目標とし、「いのちのつながり」「環境」「かかわり」をキーワードとして捉え、教育活動を通して、ユネスコスクールの理念に迫る。

【めざす子ども像】

- ・ 自分の周りで起きていることを自分の問題としてとらえ、課題解決に向け主体的に行動することができる。
- ・ 周りの人や周りのことについて考えることができる。
- ・ 素直で積極的にあいさつすることができる。

【手立て】

- ① 年間計画に基づいた ESD の活動
- ② アクティブラーニング型授業づくり
- ③ 他校や他団体との交流
- ④ 情報発信（学校便り、ホームページ等）